

松下国際財団 研究助成 研究報告

【氏名】Shakya Lata (サキヤ ラタ)

【所属】(助成決定時)京都大学大学院 工学研究科都市環境工学専攻

【研究題目】

ネパール伝統市街地における高齢者居住支援のための重層的生活圏マネジメントに関する研究

【研究の目的】

本研究の目的はネパール、パタン市の重層的传统空間という様相に着目し、その空間の特徴を活かした高齢者の居住支援のための生活圏マネジメントに関する知見を得ることである。伝統市街地を近代的な建物に置き換えるのではなく、そこで存在する生活文化を活かしたマネジメントが必要である一方で、将来、必然的に到来する社会問題(高齢化社会)の対策に取り組んだマネジメントも必要であると考えられるため本研究ではパタン市の伝統的市街地(仏教僧院街区)の実態把握と高齢者の生活圏について探った。

【研究の内容・方法】

パタン市の伝統市街地は8~11世紀の仏教成長期には仏教学を学ぶ都市として知られ、現在も150以上の僧院が存在する。そのことから、仏教僧院街区という視点から僧院を中心とした市街地の実態把握を探った。その方法としては文献調査、仏教学の専門家などにインタビュー調査を行い、ネパールにおける仏教僧院の歴史と変容について把握した。また、市街地に存在する仏教僧院はバハとバヒとして知られ、それぞれを主僧院(ムーバハ、ムーバヒ)と副僧院(カチャバハ、カチャバヒ)に分けられるが、これらが現在どのように利用され、所有や管理もどうなっているのかを、ムーバハ16件とムーバヒ21件の運営・管理組合サンガの構成員に対するインタビュー調査と現地調査から把握した。

一方、高齢者の生活圏に関しては伝統市街地の住区単位ツール(Tole)を三つ抽出し、各ツールの主僧院内や周辺に住む高齢者の生活行動についての分析を行った。パタンの伝統市街地はネワール族の集落でもあるため、高地に小規模・高密度に住居を構え、カースト制度に基づく空間構造をもっている。そのため、市街地の中心ほど上位カースト、中心から外れるほど下位カーストの居住場所にもなっている。その点からできるだけ多様なカーストが居住するイカチェール、ブバハツール、ピンチェバハツールの高齢者の日常生活行動について聞き取り調査と観察調査を行った。

【結論・考察】

伝統市街地の実態把握によって、かつて未婚僧侶の住む場であった仏教僧院は在家僧侶の居住場となり、じょじょに普通の住宅街のように変化したこと、また、近代化とともに、伝統的な利用状況に変化が見られるようになっていることがわかった。

また、主僧院ムーバハの事例調査からは、宗教空間として利用されながらも、居住空間や地域の空間としても利用されている状況が見られた。ムーバヒの利用状況の分析と類型化からは、管理状態のよい僧院では地域の空間としての利用も行われているが、個人住宅化が進行したり、サンガの構成員が減少した僧院では地域の空間として活用されず、老朽化も進行していることが把握できた。このようにもともとは地域に開かれた空間であった僧院の空間をどのように生かすかがマネジメントを考える上で重要であるといえる。

一方、高齢者の生活圏実態把握からは日常生活圏は自宅、中庭、住区ツールを越えて町までとなっていること、高齢者にとっては宗教空間と住居空間の重層性をもつ仏教僧院街区は自宅以外の居場所となっていることが把握できた。このような町の空間をどのようにマネジメントしていくかを探っていくことが課題であり、マネジメントの条件になるといえる。